



WORLD RAFTING FEDERATION

RAFTING AND PARA-RAFTING SPORT RULES

世界ラフティング連盟
ラフティングとパララフティングスポーツルール

目次

セクション I - 一般規則

第1条 - WRF 競技活動	6
第2条 - ドーピングとの戦い	6
第3条 - 競技の分類.....	6
第4条 - スポーツ日程と競技規則.....	7
第5条 - 競技への参加	7
第6条 - 賞.....	7
第7条 - WRFランキング.....	7

セクション II 当事者

第8条 - 参加	8
第9条 - 服装と個人の安全装備.....	9
第10条 -チーフジャッジ/審判長	10
第11条 - ジャッジ/審判.....	11
第12条 - 地域組織委員会.....	12
第13条 - 地域組織委員会の任務.....	12
第14条 - レース事務局：設立と任務	13
第15条 - レースディレクター	14
第16条 - 安全管理者.....	15
第17条 - 救助サービス.....	15
第18条 - タイミングサービス.....	15
第19条 - 代表団長.....	16

セクションIII - 組織規則

第20条 - 公報.....	16
第21条 - スケジュール	16
第22条 - 登録および参加費	17

第23条 – 参加.....	17
第24条 レースの変更と中止.....	17
第25条 – 代表団の認証と代表団長の会合.....	18
第26条 – 撤退.....	18
第27条 – レースビブス.....	18
第28条 – スタートリスト.....	19
第29条 – 結果の公表	19
第30条 – 会場での広告.....	19
第31条 – 技術資料への広告.....	19

セクションIV – 技術規則

第32条 – コースの特徴	20
第33条 – ラフトの特徴	20
第34条 – スタート規定	21
第35条 コース中の行動.....	23
第36条 パドルの紛失または損傷.....	24
第37条 – ボートの転覆.....	24
第38条 – レースの停止.....	24
第39条 – 失格措置.....	25
第40条 – コンプレイン 苦情	25

セクション V – RX レースの特別要件

第41条 – 定義.....	26
第42条 – タイムスプリント.....	26
第43条 – タイムスプリントのスタート	26
第44条 - タイムドスプリントのゴール.....	27
第45条 – タイムドスプリントの順位.....	27
第46条 – ノックアウトフェーズ.....	27
第47条 – コース.....	28
第48条 – ゲート	28
第49条 – ペナルティ	29

第50条 - 排除	30
第51条 - 失格.....	30
第52条 - ノックアウトフェーズのスタート.....	30
第53条 - ノックアウトフェーズのゴール.....	30
第54条 - ランキング	30

セクションVI -スラロームレースの特別要件

第55条 - 定義.....	31
第56条 - コース.....	31
第57条 - スタートオーダー.....	31
第58条 - コースの承認	32
第59条 - スタート.....	32
第60条 - ゲート.....	32
第61条 - ゲートの通過	33
第62条 - ペナルティ	33
第63条 - ゲート審判員.....	35
第64条 - ゲート審判員への信号.....	35
第65条 - ゴール.....	35
第66条 - ランキング	35
第67条 コース上の障害物.....	36

セクションVII- ダウンリバーレースの特別要件

第68条 - 定義.....	36
第69条 - 距離.....	36
第70条 - スタート.....	36
第71条 - ゴール.....	36
第72条 - ランキング	37
付録A.....	38
付録B.....	39
付録C.....	40
付録D.....	44

セクション I – 一般規則

第1条 – WRF 競技活動

1. 世界ラフティング連盟の活動は、世界ラフティング連盟（以下、WRF）が開催または承認するラフティング大会によって構成されます。
2. WRF イベントは次のように分類されます。
 - a. RX（最大距離300m）
 - b. スラローム（最大距離 300m）
 - c. ダウンリバー（最短距離 3,000m）
3. このスポーツルールはパララフティングにも適用され、具体的な規定が定められている。※付録Aに掲載されています。

第2条 – ドーピングとの戦い

1. ドーピングは厳しく禁止されており、WRF、IOC、WADA が定めた内容に従って、選手の適切な健康診断を実施することができます。
2. ドーピング物質のカテゴリーとドーピング方法のリストは、IOCとWADAの承認済み。
3. ランダムチェックは WADA と WRF の両方によって実行される場合があります。

第3条 – 競技の分類

1. WRF 競技は以下のように分類されます。

クラス A) 世界選手権、ワールドカップ。
クラス B) 大陸選手権および大陸カップ。
クラス C) WRF が認定する国際大会。
クラス D) 国内選手権
2. 第 3.1 条、クラス A)、B)、および C) で言及されている競技は、WRF 理事会によって認可されます。
3. 国内選手権は、それぞれの WRF 国内メンバーによって認可され、そのメンバーは WRF 事務局に日程を通知します。国際チームは、国内通知で規定されている場合、国内選手権に参加できます。
4. その他のプロモーションイベントは、いかなる理由においても WRF の競技活動に該当しない場合でも、管轄の WRF 機関の承認を得る必要があります。
5. レースは、コースがレース自体に適していると分類され、危険な通路、障害物、ジャンプがない限り、自然コースでも人工コースでも開催できます。

第4条 - スポーツ日程と競技規則

1. 第 3.1 条に規定するすべての競技は、WRF スポーツ カレンダーに組み込む必要があります。WRF 国際スポーツ カレンダーは、執行委員会またはスポーツ部門によって承認される必要があります。
2. 国際大会は WRFルールに準拠し国内選手権はそれぞれの国内規則に示されたルールに準拠します。
3. プロモーションイベントには特別なルールが適用される場合があり、その場合は関連するイベント速報にそのルールを明記する必要があります。

第5条 - 競技への参加

1. 当該年度に有効な国内会員資格を有し、国内組織の承認を得た選手のみが競技に参加できます。
2. WRF会員は全員、国際大会に参加できます。
3. アスリートおよびパラアスリートは全員、第 3.1 条のクラス A)、B)、および C) に規定された競技に参加するには、「WRF アスリート メンバーシップ」を保有している必要があります。WRF 事務局は、技術指示を記載した特定のハンドブックを発行する責任があります。「WRF アスリート メンバーシップ」は、各国内連盟によって別途規定されない限り、国内メンバーシップに代わるものではありません。
4. WRF司法機関またはWRFが承認するその他の国際機関によって出場停止、失格、またはペルソナ・ノン・グラータ（好ましくない人物）としてマークされた個人またはWRFメンバーの競技への参加は禁止されます。
5. WRF メンバーは、WRF の法定目的に著しく反するデモに参加することは禁止されています。すべての違反は WRF 司法機関によって対処されます。
6. 第3.1条、クラスA)、B)、およびC)に規定する競技への登録は、WRFが別途定めない限り、WRFオンラインプラットフォームを通じて行う必要があります。

第6条 - 賞

1. WRF スポーツ カレンダーに含まれる競技の各カテゴリについては、WRF プロトコル ガイドラインに従って、現地組織委員会が表彰式を開催する必要があります。
2. 各イベントおよびカテゴリーの上位 3 クルーに、1 位、2 位、3 位の賞が授与されます。その他の賞も競技者に授与される場合があります。

第7条 – WRF世界ランキングと大会総合ランキング

1. 第 3.1 条、クラス A) および B) に規定される競技のイベントランキング順位により、世界ランキングのスコアが生成されます。イベントの到着順に応じて、スコアの割り当ては次の方で行われます。

a. 割り当てられる最高スコアは次のとおりです。

RX	120
スラローム	100
ダウンリバー	80
合計	300

b. 各チームに与えられる得点は、以下の基準に基づいてパーセンテージで計算されます。最大スコアは次のとおりです。

1位：100%、2位：90%、3位：80%、4位：75%、5位：70%、6位：68%、7位：66%
8位以降：各順位ごとに2%減（付録B）。

c. 各チームの得点は、それぞれの国の総得点に加算されます。

d. イベント主催者は、イベント終了後 72 時間以内にイベントスコアを WRF 事務局に送信する必要があります。

e. 毎年末に、国別の世界ランキングが決定されます。

シーズン中に達成された全国合計スコアに応じて決定されます。

2. プロモーションイベントは、管轄の WRF 機関によって承認された場合でも、スコアは生成されません。

3. 競技終了後、総合順位が決定されます。得点の配分は、競技の到着順に応じて、前条 7.1 項に規定された以下の方に従って行われます。

セクション II 当事者

第8条 – 参加

1. 参加資格は、以下に定めるカテゴリーごとに登録された男女とする。

2. 選手は年齢によって以下のカテゴリーに分けられます。

a. ジュニア(Under19): 基準年度に15歳から19歳の選手。19歳未満のクルーはこの年齢層に属する選手のみで構成されます。19歳以下のカテゴリーの選手は、単独選手としてもクルーとしても、23歳以下またはシニアカテゴリーで競技することができます。年齢に関係なく、23歳以下またはシニアカテゴリーの競技に参加する場合、すべての選手がこのカテゴリーに分類されることは明らかです。このカテゴリーに属する選手は、

最高難易度クラス III の自然河川。最高難易度クラス IV の人工河川および半人工河川でも競技に参加できます。

- b. Under23: 基準年で15歳から23歳の選手。23歳以下のクルーはこの年齢グループに属する人のみで構成されます。23歳以下のカテゴリーの選手は、シニア カテゴリーで単独選手としても完全なクルーとしても競技に参加できます。年齢に関係なく、シニア カテゴリーの競技に参加するすべての選手がこのカテゴリーに分類されることは明らかです。
 - c.シニア: 基準年において15 歳から75 歳までの選手。
 - d.マスター:基準年において 35歳から75 歳までの選手。
- この年齢グループに属する選手のみがこのカテゴリーに参加できます。
3. U19、U23、シニア、マスター カテゴリーのクルーは、男性、女性、またはMIXのいずれでもかまいません。女性 クルーは女性のみで構成します。コンチネンタル カップを除き、条項 3.1、クラス A) および B) で言及される競技では、男性クルーは男性のみで構成します。
 4. MIXクルーはR4カテゴリーでのみ競技が許可され、2人の男性選手で構成される。及び、第8条2項に規定するカテゴリーに従って女性選手2名。
 5. クルーの人数は、R4 カテゴリーのラフトの場合は 4 名、R6 カテゴリーのラフトの場合は 6 名とし、年齢グループ別に配分し、前述の制限に従って構成する必要があります。

第9条 – 服装と個人の安全装備

1. 乗組員全員は、以下の衣類を良好な状態で着用しなければなりません。
 - a) テクニカルウェア
 - a.1 水温が8°C以上の場合:
 - ・胸部用のキャプリーン/ライクラ少なくとも 1 枚（長袖または半袖）
 - ・ネオプレンショートパンツ。
 - a.2 水温が8°C以下の場合:
 - ・スプラッシュジャケット（半袖または長袖）
 - ・胸部にはキャプリーン/ライクラ。
 - ・ネオプレンパンツ。
 - b) 必須の安全装備
 - b.1 個人用浮遊装置: 乗組員はそれぞれ、身体に適したサイズの浮力補助ジャケットを着用する必要があります。
 - b.1.1 すべてのサイズで少なくとも 50 N の浮力が必要です。
 - b.1.2 膨張式浮力装置は許可されません。

- b.1.3 変更が加えられておらず、良好な動作状態であること。
- b.2 ヘルメット:各乗組員は頭部にしっかりと固定できる保護ヘルメットを着用しなければなりません
ヘルメットは次の条件を満たすものとする。
 - b.2.1 工業規格「ホワイトウォーター用ヘルメット」のラベルを貼付しているもの
 - b.2.2 変更が加えられておらず、良好な状態であること
- b.3 底が硬く、閉じた靴。

2. 少なくとも 1 人の乗組員は、3 メートル以上のフリップ ライン、ナイフ、ホイッスル、15 メートル以上のスローラインを携行する必要があります。スロー ラインはボートに固定することもできます。
パッククラフト以外のボートには必ず予備のパドルが搭載されていなければなりません。ただし、スラロームおよび RX 競技では予備のパドルはオプションです。
3. 服装や装備の要件は、レースが行われる川の水温や難易度によって異なる場合があります。この場合、組織委員会は、第 9.1 条に規定されている最低限の要件に従って、イベントの公告で推奨される個別の技術的装備と服装を指定する義務があります。
4. 各クルーは出発前に、装備の各コンポーネントが前項の規定に準拠していることを確認し、レース期間中は各自が適切なメンテナンスを行う責任を負います。

第10条 – チーフジャッジ/審判長

1. チーフジャッジは、WRF の管轄機関によって任命され、レース役員の協力を得て、WRF 役員ハンドブックに定められた職務を遂行します。
2. 特に、チーフジャッジの職務は次のとおりである。
 - a. 各WRF審査員に審判の割り当てを与えること。
 - b. レース開始前に少なくとも1回、その後は必要と判断されるたびにレース役員を召集する。
 - c. レースコースを検査し、現在のWRF規則に定められた規則に準拠しているかどうかを確認する。
 - d. 選手の身元を確認するためにサンプル検査を実施する。
 - e. 現在のWRF規則に含まれる技術的規定の遵守を確保すること
 - f. レース開始前に、本規則の規則に従ってすべてが準備されていることを確認すること。
 - g. 規則に違反した乗員に対してレース役員が課した失格を代表団長に通知すること。
 - h. 代表団長が提出したレースまたは仲裁決定に関する苦情を審査し、裁定すること。

- i. 過失があった場合に審判、判定を覆すこと。
 - j. レース終了後、レースの詳細な概要を記載した仲裁報告書を作成し、決定のコピーを添付して、秘密文書として、レース開催日から5日以内に司法委員会のコーディネーターとWRF事務局長にのみ送付する。
3. チーフジャッジは、適切な場合、損傷を受けたという証拠を提示したクルーに再レースを認めることができる。
4. チーフジャッジと役員のオフィシャルは、WRF が主催するあらゆる競技に必要である。
5. 競技会を開催するために必要な審査員の数は、イベントマネージャーと協力してチーフジャッジが決定します。

第11条 – 審判員

1. チーフジャッジは他の審判員に以下の任務を割り当てる。
 - a)搭乗審査員は、ラフトが本規則で定められた基準に適合していること、乗組員が保護ヘルメット、認定ライフジャケット、レースの実施に適した衣服を着用していることを確認し、適切な安全装備を身につけていない競技者の出発を拒否します。審査員が不足している場合は、チーフジャッジが適切な資格を持ち、他の審判員と緊密に連携する人物を選ぶこともできます。
 - b)スタート審査員は、全員を正しい順番でスタートさせ、以下のチームのスタートは認めないこと。（チーフジャッジと連絡を取りながら）
 - 安全要件に準拠していない
 - 何度も呼びかけられたにもかかわらず、指定された時間にスタートゲートに現れなかった者
 - レースナンバーの入ったゼッケンを着用していない
 - スタートリストの順番を尊重しない。
 - c)セクター審査員は、担当区間のコースを監視し、レースルールに従って走行が行われていることを確認します。また適切なペナルティがデータ収集センターに通知されていることを確認します。
 - d)フィニッシュ審査員：競技者が定期的にフィニッシュラインを通過したかどうかを確認し、合図する。
フィニッシュラインを通過したことを音声信号でチームに知らせます。
2. 競技役員は、チーフジャッジの指示により、同じイベントで1つ以上の指示機能を担うことができます。
3. 競技役員は競技中、競技者を呼び戻したり、アドバイスを与えたり、煽動したりすることは絶対にできません。

第12条 – 地域組織委員会

1. 現地組織委員会は、WRF 国際イベント ハンドブックに従って、責任ある有資格者によって調整されます。
2. 大会の運営は、正式には地元組織委員会に委託されます
3. 地方組織委員会の責任者であるイベントマネージャーは、委員会のさまざまなメンバーにタスクを割り当て、WRF から発行された指示に従って活動を慎重に調整し、レースディレクターに報告します。
4. イベント マネージャーは、WRF イベント ハンドブックに定められた期間内に、イベント期間中の委員会メンバーに関する情報を WRF 事務局長に提供する必要があります。

第13条 – 地方組織委員会の任務

1. 地域組織委員会の任務は次のとおりです。
 - a) 管轄当局から必要な許可をすべて取得すること。
 - b) 治安当局に通報すること。
 - c) 競技期間中、管轄当局から航行禁止命令または慎重航行命令を取得すること。
 - d) 本規則に含まれる規定に従って競技コースを設定すること。
 - e) 計画された必要な会議をすべて開催すること。
 - f) レースディレクター、主任審判員、およびレース役員に支援を提供すること。
 - g) 第14条に定められたすべての任務を遂行できるレース事務局を設立する。
 - h) 競争が適切に遂行されるために必要なすべての書類を準備すること。
 - i) 適切なタイミング サービスを準備する。
 - j) WRF からの要請があった場合、競技前に WRF 代表者によって確認およびチェックされる公式ビデオ サポートを準備する。
 - k) 本規則に従って安全管理者を任命し、または安全区域を組織し管理すること。
 - l) イベント期間中、適切な応急処置サービスを実施し、組織すること:
少なくとも医師と救急車の存在は必須です。
 - m) 競技事務局の敷地の近くに、公式通信用の適切な登録簿を設置すること。
 - n) WRFメンバー代表者との継続的かつタイムリーで効果的なコミュニケーションを組織する。
 - o) 式典のさまざまな段階、特に表彰式に関わる段階を管理する式典のさまざまな段階、特に表彰式に
関わる段階を管理する

- p) 競技コース上でのロジスティックス手配を容易にし、代表団を支援する。
- q) あらゆるレベルでイベントを宣伝し、イベントの進捗状況に関するタイムリーで包括的なニュースを提供することで報道機関の活動を促進することができる報道室を組織する。
- r) 観客を収容するのに適した構造物、適切な増幅システム、適切な解説を提供できる人（講演者）の存在を保証すること。
- s) 重量に適した秤と、ラフトの重量と救命胴衣の浮力を測定するために必要な機器を提供すること。
- t) コンテスト終了後少なくとも12ヶ月間、イベント全体のドキュメント原本またはコピーを保管すること。
- u) WRF国際イベントハンドブックに従ってイベントを管理する。

第14条 - レース事務局の設立と任務

1. レース事務局は適切なスキルを持った人によって運営されており、他の職員の支援を受けることもあります
2. レース事務局には、WRF イベント ハンドブックに定められているとおり、適切に機能するために必要な電話回線（または携帯電話）が少なくとも 1 本と、すべてのオフィス機器/ツールが備わっていなければなりません。
3. 競技期間中、事務局は競技場のすぐ近くの適切な場所に設置されなければなりません。
4. 事務局の任務は次のとおりである。
 - a. 本規則およびイベント速報に定められた規定に従って、受領した登録を管理すること。
 - b. 入場料、罰金を徴収し、それに応じた領収書を発行する。
 - c. プログラム上のすべてのレースのスタートリストを記入し、認定時および競技開始の少なくとも2時間前までにそのハードコピーを各代表団、レースディレクター、各役員およびタイムキーパーに渡す（少なくとも2部）。
 - d. レース中に入手した完全なスタートリストを可能な限り短時間で編集し、公式通信ウォールに掲載し、レースディレクター、各レース役員、およびタイムキーパー（少なくとも3部）にコピーを配布する。
 - e. 審査長が発表した公式結果に基づいて部分的および最終的なランキングを記入し、公式通知に速やかに掲載すること。
 - f. 苦情手数料を徴収し、受理されなかった苦情に関する手数料を留保し、WRF事務局に移管する。

- g. 競技に関するすべての情報を代表団長、競技ディレクター、競技役員、タイムキーパー、および組織委員会から派遣されたさまざまな部門の代表者に提供すること。
- h. 代表団長のリストをレースディレクターと審判長に提供する。
- i. レース速報と必要な添付資料をすべて含んだ完全なフォルダーに記入し、レース終了後 5 日以内に WRF 事務局に送付してください。フォルダーに添付されたランキングには、主任審査員の署名が必要です。

第15条 – レースディレクター

- 1. レースディレクターは、国内連盟の承認を得て、組織委員会によって任命されます。
- 2. 競技が世界選手権、ワールドカップ、または大陸選手権である場合、レースディレクターは WRF の承認を得て国内連盟によって任命されます。
- 3. レースディレクターは、WRF のレース役員、または WRF 事務局によって承認されたスポーツルールを完全に理解している人物でなければなりません。レースディレクターは、競技の総合的な管理を担当し、そのために主任審査員と継続的に連携します。
- 4. 特に、レースディレクターの任務は次のとおりです。
 - a. イベントが WRF ルールに従って実施されることを確認する。
 - b. 正当な理由がある場合には、出発時刻を変更し、レースコースを変更し、また障害が長期間継続する場合は競技を中止する。この場合、レースは第11条に示された規定に従って移動または中止される。
 - c. 主審の提案と正当な理由に基づき、レース役員を指名する。
 - d. WRF の規定に従って、レース中または競技全体を通じてスポーツの公平性のルールに違反した WRF 会員または選手に対して罰金を科し、レースから追放し、またはその他の懲戒処分を科す。当該会員は、これらの規定を主任審査員に通知しなければならない。
 - e. スポーツ違反または懲戒違反の可能性があると判断された場合、WRF 司法機関に通知する。
 - g. レースファイルを埋める。
- 5. レースディレクターの決定は即時有効となります。
- 6. レースディレクターは、イベントの全期間にわたって競技に立ち会う必要があり、どのクラスのボートでも競技者として競技に参加することはできません。

第16条 - 安全管理者（セイフティマネージャー）

1. 安全管理者は救助隊員と協力して、レース中の安全に全責任を負います。
2. 安全管理者は、状況が潜在的に危険であると判断した場合、または川の水位が選手の安全を脅かす一定の危険レベルに達した場合には、レースディレクターと主任審判員に通知して、レースの即時中断を要求することができます。
3. 安全管理者は、イベントの全期間を通じて常に競技に立ち会う必要があり、どのクラスのボートでも競技者として競技に参加することはできません。
4. 安全管理者は、作業服および個人用安全装備を変更することができます。
必要に応じ第9条に規定する。

第17条 - 救助サービス

1. 組織委員会は、コースの最も困難で危険な部分において、適切な救助および援助サービスを確保しなければならない。
2. レスキュー サービスは、無料トレーニング セッションの開始からすべてのレースの終了まで保証される必要があります、レスキューロープ、アンカー付きのラフト、安全カヤックなどの適切な装備、または最大限の安全を確保するために必要なその他の装備を備えた、経験豊富で装備の整った多数の人員で構成されている必要があります。
3. 救助サービスは安全管理者によって調整され、安全管理者は常に現場に常駐し、イベント期間中はレースディレクターと連絡を取り合います。
4. 救助隊は、安全管理者からレース終了の通知を受け、レースディレクターの正式な承認を得た後にのみ、レースコースから撤退し、活動を停止することができます。

第18条 - 計測

1. WRF イベントでは、計時サービスは WRF のタイムキーパー、または WRF または WRF メンバーによって認識および承認された同等の組織によって実行されなければなりません。
2. タイムキーパーによって記録された時間は最終的なものとなります。
3. タイムキーピングはスタート信号が発せられ、ラフトのどの部分でもスタートラインを越えた瞬間に始まり、ボートのどの部分でもフィニッシュライン/仮想ラインを越えた瞬間、またはタイム検出システムを通過した瞬間に終了します。
4. レース時間の検出は、スタートラインとゴールラインに光電セルを取り付けて電子的に行う必要があり、AレベルまたはBレベルの競技では、100分の1秒の精度で行われる必要がある。

第19条 – 代表団長

1. 各代表団は登録手続き中に代表団長の名前を伝えなければならない
2. 代表団長は、WRF メンバーの名において、また WRF メンバーに代わって、本規則の規定を厳守してレース中に要求または要請されるあらゆる種類の公式行為を実行する権限を持つ唯一の主体です。

セクションIII – 組織規則

第20条 – 公報

1. 第3条1項a)b)に規定する競技会の公告は、WRF事務局が提供するモデルに基づいて地方組織委員会が作成しなければならない。

第21条 – スケジュール

1. イベント速報の作成においては、レースの順序、各イベント間の時間間隔、イベント期間中のレースの配分に関して、本条項および WRF 国際イベント ハンドブックに規定された規則に従う必要があります。
2. 競技日が 1 日のみ予定されているイベントを実施する場合
 - a) イベント速報でショートレース（スラロームまたはRX）とロングレース（ダウンリバー）の実施が予定されている場合、ショートレースは午前中に、ロングレースは午後にスケジュールするか、その逆とします。ショートレースとロングレースの間隔は60分未満にしないでください。
 - b) スラロームでは、第 1 滑走の最後の競技者と第 2 滑走の最初の競技者の出発間の最小時間間隔は 30 分未満であってはなりません。
3. 2日間以上にわたるレースの開催の場合
 - a. RX の予選フェーズの最後の競技者の到着と「ノックアウト」フェーズの最初のペアの出発との間の時間間隔は、少なくとも 30 分である必要があります。
 - b. スラロームレースの後にRXレースが予定されている場合、RXまたはスラロームレースの決勝の終了とRX予選またはスラロームの最初の競技者の出発との間の時間間隔は60分以上でなければなりません。
 - c. レースの順序は、主催者のニーズに応じて変更したり逆にしたりすることができます。

- d. イベント速報では、通常の表示に加えて、イベントの継続時間、同じイベント間またはイベント間の間隔も表示する必要があります。

第22条 – 登録および参加料

1. イベントの告知、案内において、登録には全国連盟の会長、関係する会員、または他の管理者の署名が必要です。
2. 登録料は、WRF料金システムの原則に従って、地方組織委員会によって決定される。
3. 料金は、WRFメンバーが地元組織委員会に支払わなければならず、支払わない場合は大会から除外される。

第23条 – 参加

1. 予定されているすべてのイベントは、少なくとも 3 チームが競技に参加し、同じカテゴリーで競技する場合に有効とみなされます。
2. イベントが国際大会とみなされるためには、3つの異なる国が同じカテゴリーで競争する必要があります。

第24条 – レースの移動と中止

1. 国際大会の開始72時間前に、不可抗力の理由により大会の開催が不可能になった場合、大会組織委員会は、大会自体の実施が不可能であることを伝え、登録されているすべてのWRF会員および管轄のWRF機関に、大会の変更および/またはキャンセルを通知する必要があります。
2. 新しい日付への変更は、管轄の WRF 機関によって事前に承認されていることに加えて、組織委員会から WRF 事務局を通じて WRF 執行委員会に速やかに通知されなければならず、事務局は既に登録されているすべての WRF メンバーに通知するものとします。メンバーは登録を変更することはできませんが、その他の辞退を通知することはできます。辞退は、新しい日付の通知とともに、さらに期限内に行われた場合、制裁の対象にはなりません。

第25条 – 代表団の認証と代表団長の会議

1. 代表団の認定はイベント速報に指定された方法で行われます。

2. 認定手続き中、登録された代表団はそれぞれ代表者を同伴する必要があります。代表者がいない場合は、登録は自動的に確認されます。
3. 認定期間中、代表団長は適切なフォームを使用して、撤回を通知する必要があります。
4. スケジュールは、要求するすべてのメンバーに提供されなければなりません。
5. 代表団長会議は、イベント速報に指定された方法で開催されます。
6. 代表団長会議には、レースディレクター、主席審判員、WRF代表、組織委員会委員長、代表団長が出席します。WRF または LOC から特別に招待されない限り、許可されない限り、出席できる人はいません。

第26条 – 撤退

1. クルーの撤退は、認定段階中に代表団長によって通知されなければならず、その決定は最終的なものとなります。
2. 認定終了後に発表された撤退には、各シーズンの初めに WRF 執行委員会によって設定される制裁金が WRF 事務局に支払われることになります。
3. 正当な理由がある場合、レースディレクターは制裁を停止することができます。

第27条 – レースビブ

1. 地元組織委員会 (LOC) は、番号入りのビブスを用意する必要があります。ビブスには、競技者の胸と背中に番号がはっきりと表示されなければなりません。また、クルー全員に表示されていない場合は、進行方向前方に座っている競技者のうち少なくとも 1 名に番号が表示されなければなりません。この決定は、代表団長に伝えられます。
2. LOC は、RX 競技用に 2 つの異なる色のビブを用意する必要があります。
3. 数字は白地に黒で、文字の高さは少なくとも 15cm、本体は 1.5cm である必要があります。
4. 各クルーはスタート時にゼッケンを着用し、レース終了後は主催委員会の指示に従ってゼッケンを主催委員会に返却しなければなりません。
5. 競技者へのゼッケンの割り当てはレース事務局が行います。

第28条 – スタートリスト

1. スタートリストは、主任審判員の指示に従ってレース事務局が作成するものとする。

第29条 – リザルトの公表

1. すべてのチームが走行を完了した後、係争中のクレームがない場合は、組織委員会は、主任審判員が承認した順位と計時結果を、フィニッシュエリアの近くに設置され、見えるように設置された公式コミュニケーションウォールに直ちに掲示しなければなりません。
2. すべての結果は少なくとも 20 分間掲載されたままにする必要があります。

第30条 – 会場での広告

1. WRF の事前承認を条件として、組織委員会は第三者に広告スペースを販売できますが、いかなる状況においても WRF のスポンサーに十分なスペースを確保する必要があります。
2. 広告の組み合わせは、ゼッケン番号へのマークの貼り付け、競馬場付近でのバナーの掲示、プログラムや結果のリストへの広告など、さまざまな方法で行うことができます。
3. 競技者、クルー、または代表団は、WRF の承認を得て、ラフト、パドル、ヘルメットなどにマークや広告文を付けることができます。
4. 法律の規制および広告に関する現地の法律に加えて、いかなる状況においても WRF が定める禁止事項を遵守する必要があります。

第31条 – 装備などへの広告

1. WRF または所属する国の組織によって許可されている場合、ラフト、アクセサリー、スポーツウェアにスポンサーのブランドや広告ロゴを配置することができます。
2. すべての広告素材は参加者の識別を妨げず、レースの視認性に影響を与えないように配置する必要があります。
3. 碑文は参加者のゴムボートと衣服の同じ位置に配置する必要があります
4. パドルに文字を書くこともできます。
5. タバコやアルコールの広告は禁止です。
6. 広告媒体は、船の側面の40~70cmのスペースに設置する必要があります。

セクションIV – 技術規則

第32条 – コースの特徴

1. コースは、競技者が流れによって危険な場所、滝、堰、障壁、ポール、ギャラリー内の水路、または乗り越えることのできないその他の障害物に向かって流されることがないようにする必要があります。
2. 現地組織委員会は、洪水によって生じた樹木や浮遊物などの障害物を通路から除去し、代表団長に通知して、必須の通過地点（自然または人工）の存在を適切に表示する必要があります。

第33条 - ラフトの特徴

1. ラフトは自動的に排水される必要があります。
2. 競技活動を行うことが許可されるボートには、以下の要件が満たされていなければなりません。

a. 4人乗りインフレータブルボート（カテゴリーR4）：

最小長さ: 3.40 m
最大長さ: 4.20 m

最小幅: 1.70m

横管数: 2

フットストラップ数: 4/6

最小サイドチューブ径: 0.40m

最小重量: 32.0 kg

b. 6人乗りインフレータブルボート（カテゴリーR6）：

最小長さ: 4.20 m
最大長さ: 5.00 m

最小幅 2.00 m

横管数: 3

フットストラップ数: 6/8

最小サイドチューブ径: 0.40m

最小重量: 38.0 kg

c. 1人乗りインフレータブルボート（パックラフト）：

最小長さ: 1.80 m
最小幅: 0.90 m

最小重量: 2.0 kg

3. すべてのインフレータブル ボートには、パックラフトを除き、最低 8 個の D リングで固定された外周安全ロープと、船首の船尾に 1 本のロープを装備する必要があります。運搬用ハンドルは許可されています。安全上の理由から、その他のロープは固く禁止されています。

4. 各ラフトには、ボートに乗っている選手一人につき最低1つの「フットストラップ」が備え付けられていなければなりません。パックラフトは例外。
5. 推進はシングルブレードのパドルで行いますが、ボートに固定された支持点があつてはなりません。R1 カテゴリーの選手の推進はダブルブレードのパドルで行います。
6. 底部には安全バルブが装備されている必要があります。安全バルブは柔らかい素材で作られており、接着ではなくロープで固定することが望ましいです。
7. 各参加者はパドルを自由に使用できますが、オールの使用は禁止です。
8. 各ラフトの乗組員は、ボート製造業者が設定した最大人数を超えることはできません。
9. コンチネンタルカップを除く、第3.1条、クラスA)およびB)に規定する競技では、WRF理事会が別途定めない限り、付属書Cに従ってWRFが承認したラフトモデルのみを使用できます。

第34条 - スタート規定

1. 各種イベントのスタートは、次の 2 つの方法のいずれかで行うことができます
 - a)個別スタート、つまりボート1隻あたり：
 - 1) 競技者は時間通りにスタートゲート付近に到着し、到着を確認した後、スタートに最適な位置に着く必要があります。
 - 2) スタートは、できればスタート審判員のアシスタントによって所定の位置に保持された状態でラフトが静止した状態で行われます。
 - 3) 各競技クルーは、各イベントごとに、スタートの 10 秒前に現地または音響信号で通知されなければなりません。その後、「PADDLES OUT OF THE WATER」という指示が出され、スタート審判員の裁量で最後の 5 秒がカウントされます。出発はビープ音または「Go」の発音で合図されます。
 - 4) フライングスタートはスタート審判員の疑いのない判断によって決定されます。
 - 5) スタートは少なくとも1分間隔で設定されます。
 - b)インライнстарт：
 - 1) このタイプの出発は、すべてのラフトを隣り合わせて配置できるほど十分な幅があり、流れが弱い川岸に沿ったスペースがある川の区間で実行する必要があります。
 - 2) クルーは、全員が乗船しているか、全員が地上にいるか、または 1 名が地上にいていかだを支え、他のクルーは乗船している状態（スタートの種類は代表団長会議中に通知される必要があります）で点呼され、スタート ラインに対して上流に整列し、その後、ゆっくりとスタート ラインに向かって隊列を組んで誘導されます。

- 3) スタート審判員は、ボートが水中または岸上で基本的に静止し一列に並んでいるのを確認した場合、コマンドの直後にビープ音が鳴るか、「GO」という言葉を声に出して発声します。

c) グループスタート:

- 1) 岸にスペースがなく、一列に並んで出発できない場合は、必要に応じてラフトをグループ分けして出発させることもできます。クルーはスタートの 10 秒前に通知されます。その後、「パドルを水から出してください」という指示が出され、スタート ジャッジの裁量で最後の 5 秒がカウントされます。出発はビープ音または「GO」という大きな声で合図されます。
- 2) グループ数とグループあたりのクルーの数は、登録された競技者の数とスタート時に利用可能なスペースによって決定されます。
- 3) グループの構成、出発順、位置は、レースディレクターが抽選および/または前回のレースで獲得した時間やスコアに基づいて決定します。

d) RX レースのスタート方法 :

出発する 2 隻のラフトは、どちらも同じ流れの状態になる可能性のある川の区間に配置され、スタート ジャッジのアシスタント 2 名によって保持されます。

スタート ラインから、レースディレクターによって決定されたコースの区間は、ラフトやクルーが接触しないように 2 つのレーンに分割する必要があります。

出発の 3 秒前に、クルー全員のパドルが水に触れないようにする必要があります。 競技に参加する各クルーは、各イベントごとに、スタートの 10 秒前にローカルまたは音響信号で通知を受ける必要があります。

その後、「PADDLES OUT OF THE WATER」という指示が与えられ、スタート ジャッジの裁量で最後の 5 秒がカウントされます。出発は、ビープ音または「Go」の発音で合図されます。

2. 各イベントのスタート方法は代表団長会議中に伝達される必要があります

3. スタートの5秒前にはパドルが水に触れてはいけません。このルールは、いわゆる「フライスタート」で開催されるイベントには適用されません。

第35条 - コース中の行為

1. 参加者は自己の責任においてレースに参加します。
2. レース開始前に、レース役員は各クルーの安全装備を点検することができる。
3. セキュリティ要件を満たしていないクルーは、同じ要件を満たさない限り、スタートできません。再点検の後、安全要件への準拠が証明されると、他のすべてのクルーの順番にスタートできます。

4. クルーの参加者は、割り当てられた所定の時間内に安全要件を満たさない場合、失格となる場合があります。
5. 安全管理者は、乗員および/またはサービス自体に関与する人々に危険がある場合、いつでもレースを中止する権利を有し、直ちにレースディレクターおよび審査員長に通知するものとします。
6. 安全に関する問題については、安全サービスが最終決定を下します。
7. 安全サービスに関する者が、特定の状況でいかだに停止または協力を要請する場合、特定の音声信号が発せられ、全員がそれに従う必要があります。この種の信号は、レース自体の前に代表団長に伝えられなければなりません。安全サービスの指示を守らない、または自分自身または他の人の安全を怠るクルーは、レースから失格となる場合があります。
8. イベントやレースの主催者は、レース中に発生する事故や損害について一切責任を負いません。
9. 主催者スタッフおよび競技者全員を含む参加者は、事故や損害のリスクを最小限に抑えるために、常に意識的かつ正しい行動を取らなければなりません。
10. ひっくり返ったボートが元の位置に戻り、チームメンバー全員がゴール前にラフトの中にいる場合、ひっくり返ったことは失格の理由にはなりません。
11. ラフトが元の位置で、乗員全員が乗った状態でフィニッシュ ラインを通過した場合、つまり、カテゴリー R6 の場合は 6 名が乗った状態で、カテゴリー R4 の場合は 4 名が乗った状態でフィニッシュ ラインを通過した場合、ペナルティは発生しません。乗った状態では、胴体以外の体のどの部分も水に触れていないことを意味します。
12. レース中は、近づいてくるボートに道を譲り、通過を容易にする必要があります。スラロームおよびダウンリバーのレースでは、近づいてくるボートに道を譲らず、故意に追い越しを容易にしなかった場合は、10 秒のペナルティが課せられ、合計レース時間に加算されます。また、主任審判員が故意とみなした場合は失格となることもあります。
13. 追い越そうとするボートの乗組員は、追い越そうとするボートの乗組員の注意を引き、追い越したい側を指さなければなりません。
14. 他の競技者が追いついたボートの乗組員は、追いついてくるボートの進行を妨げてはならず、追いついてくるラフトによって示された側に寄る必要がある。追いついたボートは、追い抜かれる乗組員に「注意、右へ」または「注意、左へ」と大声で知らせ、追いつく時間を与える義務がある。
15. あるボートが他のボートに追い抜かれそうになったとき、現場審判員がいる場合は、審判員が繰り返し笛を吹き、追い抜かれようとしている競技者は道を譲らなければなりません。
16. スラロームレースにおいて、主席審判員は、申し立てが認められた場合、またはセクター審判員の勧告に基づき、クルーが明らかに妨害された場合、クルーに再走行を許可することができます。
17. レースコース沿いの岩場で動けなくなったボートや、停止したボートの乗組員は、できるだけ早くレースコースから退去しなければならない。

接近するボートにとって困難な状況で危険な状況である場合、乗組員は静止したいかだの上に移動し、接近するボートから見える位置まで移動し、川の標識の規則に従って障害物を報告しなければなりません（パドルを頭上に水平に上げます）。

18. レース中にチームメンバーの1人以上を失ったクルーは、レースを続行する前にそのメンバーを水中から救出する必要があります。
19. クルーの一人が負傷によりレースを続行できなくなった場合、負傷者が医療スタッフまたは警備員に引き渡された場合にのみ、他のチームメンバーはレースを続行できる。
20. 一部のレースでは、コース上のポイントでボートが困難かつ危険な状況に陥り、救助隊が介入することが不可能になる場合があります。この場合、接近するクルーは停止し、明らかに困難な状況にある人に即座に救助を提供する必要があります。

第36条 パドルの紛失または損傷

1. 競技者がパドルを紛失したり壊したりした場合は、ボートに置かれた予備のパドルのみを使用できます

第37条 – ボートの転覆

1. ボートがひっくり返ってメンバーが完全にボートから脱出すると、クルーはひっくり返ったとみなされます。この場合、クルーはボートをレースモードにリセットしてレースを続行できます。

第38条 – レースの停止

1. レース開始前またはレース中に、レース役員の勧告により、重大かつ証明された危険がある場合、レースディレクターは危険が去るまで競技を中断し延期しなければなりません。

第39条 – 失格の措置

1. レースオフィシャルは、純粹に技術的な違反については、以下のクルーを失格とします。
 - a) 競争規則に従わない場合
 - b) 検査において、規則に準拠していないボートおよび/または安全要件に準拠していないボートでレースを行ったとして有罪となった場合。
 - c) レース規則で許可されていない外部援助を受ける。外部援助とは、次の意味です。

- 1) 最終結果を促進するために、ボート上でレースの参加者を直接支援する
 - 2) レース中に予備のパドルを競技者に渡すこと。
 - 3) いかだを第三者に管理、押させ、または移動させること。
 - 4) 無線送信装置を使用して競技者に合図を送ること。
2. 失格は、当該レース終了後直ちにチーフジャッジから代表団長に通知されなければならない。
 3. 代理人が複数回呼び出されても、最初の呼び出しから15分以内に審判長の前に現れない場合、出場停止は終了します。

第40条 - 苦情(コンプレイン)

1. 競技の開催または恣意的な決定に関する苦情（付録 D）は、当該レースの順位が公式通信用の壁に掲示されてから 20 分以内に、代表団長が署名した書面でチーフジャッジに提出する必要があります。
2. RXノックアウトステージに関する苦情は、レース終了から5分以内に審査員の決定に対して申し立てることができます。各クルーは、代表団長を通じて、各イベントに対して2件を超える苦情を申し立てことはできません。
3. 代表団長またはその他の代表団メンバーは、第 1 項で言及されている苦情とともに、苦情手数料を支払わなければなりません。苦情が認められる場合、この手数料は返金されます。苦情の内容に応じて手数料が支払われない場合、苦情は受理されません。
4. チーフジャッジは、請求の提示後20分以内に代表団長または他の公式代表団メンバーに決定を通知する必要があります。
5. クレームを証明するには、苦情の審査中に、WRF 公式ビデオ、WRF 公式写真、または WRF 公式映像からなる証拠を提出する必要があります。現地組織委員会が、クレームが発生した場所をカバーする WRF 国際イベントハンドブックで定義された解像度 (HD 解像度) の公式ビデオを提供しない場合は、個人ビデオでも許容されます。
6. 個人のビデオ資料は、違反の有無を明確に示し、レースコース上のチームの位置を疑う余地なく特定できるものでなければならない。
7. いずれにせよ、ダウンリバーに関する苦情については、あらゆる個人的なビデオが許容されます。
8. 資料を検討した後、苦情を受け入れるか受け入れないかはチーフジャッジの決定であり、この決定は最終的なものである
9. 苦情が受け入れられた場合、状況を最善に是正するために必要な措置はチーフジャッジによって決定されます。
10. 苦情に対する苦情は提出できません。
11. 苦情の受理はレースの中止に一切影響しません。

セクション V – RX レースの特別要件

第41条 – 定義

1. RX レースの目的は、2 つのボートが同時にスタートし、ノックアウト方式で競い合い、できるだけ短時間でコースを完走することです。
2. RX 降下は、その経路に沿って「偵察」を行うことができる川の部分で実行されなければならず、その部分では、両方の乗組員が可能な限り同じ難易度と流れの条件にあり、出発ラインによって同じ状況でスタートできる必要があります。
3. RXは2つのフェーズで構成されています。第1フェーズ、いわゆるタイムドスプリントでは、第2フェーズ、ノックアウトフェーズの抽選が決定されます。
4. タイムドスプリントの結果と参加者数に基づいて、限られた数のチームのみがレースの第 2 ステージに直接参加できます。その他のすべてのチームは、第 2 ステージに参加するにはレースの第 1 フェーズを完了する必要があります。レースディレクターは、第 2 ステージにアクセスできるチームの最大数を設定できます。
5. モデルノックアウトシステムは、第46条に従ってタイムスプリントの結果に基づいてノックアウトドローを決定します。

Timed Sprint

第42条 – タイムドスプリント

1. 最初のフェーズであるタイムド スプリントの目的は、ホワイトウォーター コースをできるだけ短時間で完走することです。ホワイトウォーター レース区間の最大距離は 600 m です。
2. このフェーズは 1 回の実行で構成されます。

第43条 – タイムドスプリントのスタート

1. クルーと次のクルーの間のスタート間隔は30秒から2分の間である必要があります
2. 不正スタートはスタート審判員の疑いのない判断によって決定されます。この場合、問題のチームはレースタイムに 10秒のペナルティを受けます。
3. 個々のスタート手順は、第34条1項a)に定義されています。

第44条 – タイムドスプリントのゴール

1. ゴールライン（到着地点）は、川の両岸に非常にわかりやすい方法で示されなければなりません。
2. ボートはフィニッシュラインを1回以上通過したり、レース終了後にレースコースを戻ることはできません。この規則に違反した場合、当該クルーは自動的に失格となります。
3. フォトセルのサポートのためにゲートを設置する必要がある場合、ラフトが内部でゲートを横切ることが必須です。
4. 乗組員が不足している状態でボートがフィニッシュラインを通過した場合、そのボートは失格となります。

第45条 – タイムドスプリントの順位

1. 到着順は、乗組員がコース全体を完走するのに要した時間を考慮して作成され、割り当てられたペナルティが加算されます。
2. 2つ以上の競争チームが同じ時間でタイムドスプリントを終えた場合、第2フェーズの最初の位置はコントロールで決定されます。3つ以上のチームが同じ時間だった場合、ベストポジションはゼッケン番号の小さい方によって決定されます。
3. 順位がノックアウトステージへの進出に関係する場合、同タイムのチーム間でプレーオフ（タイムスプリントの2回目の走行）が行われます。プレーオフを同タイムで終えたチームが複数いる場合は、第45.2条に規定されたルールが適用されます。

Knockout phase

第46条 – ノックアウトフェーズ

1. ノックアウトフェーズに直接進むクルーと、最初のノックアウトフェーズ（「敗者復活戦」）を通過するクルーを決定するための計算式は次のとおりです。

$$A - B = C$$

$$B - C = D$$

計算方法：

A = 2の累乗（2、4、8、16、32、64、128、356など）から、タイムドスプリントを完了したチーム数を差し引く

B = タイムドスプリントを完了したチーム数

C = 自動的にノックアウトフェーズ第2ステージに進むチーム数

D = 最初のノックアウトフェーズ「敗者復活戦」で競うチーム数

2. ノックアウトフェーズでタイムスプリントで最速のタイムを記録したチームが、スタート位置を選択する優先権を持ちます。
3. スタートゲートに遅れて現れたり現れなかったりすると、相手チームの勝利につながります。

4. ノックアウトステージでの2つのクルーのスタート位置は、両チームのラインが同一になるように、可能な限り平等な方法で選択する必要があります。

Sprint RX

第46条bis – スプリントRX

1. ダウンリバーアイベントが開催できない場合は、「RXスプリント」を開催することができます。このイベントは、第48.9条に概説されているように、ゲート数の変更を除き、RXノックアウトステージと同じルールで実施されます。
2. スプリントRXが開催された場合、その最終ランキングリストによって、RXイベントの第2フェーズであるノックアウトフェーズの抽選が決定されます。

第47条 – コース

1. コースの最大距離は300mとします。
2. 接触禁止エリア。コースの最初の部分には接触禁止エリアが設けられています。この接触禁止エリアはスタート位置から始まり、スタートラインから10メートル以上離れた場所にあるオレンジ色のポールで終わります。
3. オレンジ色のポールまたはブイは、接触が許可されている地点を示しています。
審査員長が定めた時間（ファーストコンタクトタイム）内にこのポールを横切らなければなりません。ファーストコンタクトタイムは、代表団長会議中に審査員長が提示しなければなりません。
4. 上流側と下流側のゲートは、第48条に従って設置されます。
準々決勝、準決勝、決勝ではコースデザインが変更になる場合があります。
5. RXコースの最後のセクションに、アップゲートのペナルティペアが設置されます。このゲートは、フィニッシュラインから50メートル以内で、そして10メートル以内に設置しないでください。

第48条 – ゲート

1. ゲートは水面に触れません。下流に向かって流れに沿って通行するゲートは、緑の縞模様でマークされています。上流に向かって流れに逆らって通行するゲートは、赤の縞模様でマークされています。ポールは、最大高さ2.00m、直径5cmから7cmの円形で、風で動かないほどの十分な重量があり、プラスチックパイプ(PVC)または木材で作られている必要があります。
2. アップゲートはコースに沿ってペアで配置され、1本のポールで合図されます。
各ペアで通過する必要があるゲートは1つだけです。各クルーは、各ペアで通過するゲートを自由に決定できます。
3. ダウンゲートはコースに沿って分散配置され、1本のポールで合図されます。
4. RXコースに沿ったアップゲートの数は2組でなければならないが、これには第47.11条に規定されるアップゲートのペナルティ組は含まれない。、

5. RX会場に沿ったダウンゲートの数は2でなければなりません。
6. ポールに触ることは許可されますが、故意にポールを動かしてはいけません。
7. 通常のゲート通過を考慮するには、次の条件を満たす必要があります。
 - a. トラックの設計とゲートの適切な方向に従って、すべての乗務員の頭が正しい側で同時にゲートラインを通過した。
 - b. 乗組員全員がボートに乗っていなければなりません。
8. 通常の通過後、乗組員は同じゲートラインを再度通過できます。
9. スプリントRXの場合、コースに沿ったアップゲートの数は1組でなければなりません（第47.11条で言及されているアップゲートのペナルティペアは含まれません）。また、RX会場に沿った下流ゲートの数は1組でなければなりません。

第49条 罰則 (Penalty-ペナルティ)

1. 審判員によりチームにペナルティゲートが課せられる (ペナルティ1) :
 - a. クルーが、ボートの一部、またはクルーの身体、および許可されている地点より前に利用可能なその他の装備を使用して、接触禁止区域内の他の競技者のレーンに侵入した場合。
 - b. 乗組員が、接触禁止区域の終了を示すオレンジ色のポールに、ボートの一部、または乗組員の身体やその他の装備品を触れたとき。
 - c. パドルで相手チームのプレーを妨害した場合
 - d. ゲートとの接触が意図的である場合。
2. クルーがゲートをスキップした場合、審判によってチームにダブルペナルティゲートが課せられます (ペナルティ2)
3. 罰則の回数は3回を超えることはできない。(4回のペナルティはElimination 排除となる)
4. ペナルティ1の場合、乗組員はポールを回らずに下流のペナルティゲートの1つを通過する事。(ダウンゲート)
5. ペナルティ2の場合、クルーは2つのペナルティゲートを通過する必要があります。1つのゲートはポールを回って上流に通過し、もう1つのゲートはポールを回らずに下流に通過する必要があります。(2つのペナルティゲートを1つはアップゲートとして回り、もう一つはダウンゲートとして通過する)
6. ペナルティ3の場合、クルーは2つのペナルティゲートを通過する必要があります。両方のゲートを上流に向かって通過し、ポールを回らなければなりません。(2つのペナルティゲートをアップゲートとしてそれぞれ回る)

第50条 - 排除(Elimination-エリミネーション)

1. 「排除(Elimination)」とは、敗退したチームが自動的にラウンドに負け、そのフェーズグループの最下位にランクされることを意味します。対戦チームの両方がラウンドに負ける可能性があります。
2. チームが排除(Elimination)になる場合:
 - a. 4回のペナルティが課せられた場合
 - b. 1人以上のクルーがペナルティゲートをスキップした場合。 (ペナルティゲートの不通過)
 - c. フィニッシュライン通過時に、乗員が不足している状態でラフトが通過した場合。
 - d. フライングスタートの場合は相手チームが自動的に勝利し、そのクルーは排除(Elimination)となる。

第51条 – 失格(Disqualification-ディスクオリファイケイション)

1. 「失格」とは、失格となったチームがRXからすべての順位を失うことを意味する。
イベントでは「DSQ」としてランク付けされます。 (獲得ポイントは0)
2. 以下の場合、チームは失格となり、最終ランキングには組み込まれません。
 - a. 乗組員のいずれかが他のボートのロープを掴んだ場合;
 - b. 乗組員が他のボートの選手をつかむ。
 - c. 乗組員のいずれかが、連結された2つのラフトを手で間隔を開ける。
 - d. 他の乗組員に危険や損害を与えることを目的とした暴力的な身体的接触により、審判員によってスポーツマンシップに反すると判断された場合。
 - e. クルーがコースの全長を完走または完了しない場合。

第52条 – ノックアウトフェーズのスタート

1. スタートは、2つのクルーのペアと次のクルーのペアの間で、最短2分、最長4分の間隔で行われる。
2. フライングスタートの場合は相手チームが自動的に勝利し、そのクルーは排除(Elimination)となる。

第53条 – ノックアウトステージのゴール

1. ゴールラインは、川の両岸、または可能であれば川の上に非常にわかりやすい方法で示される。
2. フォトセル (カメラ判定) のサポートのためにゲートを設置する必要がある場合、ラフトが内部でゲートを横切ることが必須となる。

第54条 – ランキング

1. レースの最終順位は次のように記入されます。
 - a. 決勝A：準決勝レースの勝者が1位と2位を決定するために競います。順位；勝者は1位、敗者は2位になります。
 - b. 決勝B: 準決勝の敗者が対戦して3位と4位を決定します。勝者は3位、敗者は4位になります。決勝Bが実施できない場合は、RX予選のベストタイムによって3位と4位が決定されます。
2. 総合ランキングに反映される他のチームの最終順位は、同じフェーズで敗退したチーム同士のRX予選でのベストタイムによって決定されます。準々決勝で敗退した4チームは、RX予選でのベストタイムで順位が決定されます。

第6章 スラロームレースの特別要件

第55条 – 定義

1. 2 回の走行で行われるこのレースの目的は、ゲートの通過を必要とする距離を、ゲートの番号が小さい順に、ポールに触れたりゲート自体を飛ばしたりしないようにしながら、できるだけ短時間で移動することです。
2. スラロームレースは、同じコースで 2 回の走行で行われます。両方の走行に参加することが必須です。ポイントの割り当ては、2 回の走行のうち最高の成績が考慮されます。

第56条 – コース

1. スラロームレースのスタートからフィニッシュまでの距離は 300 m を超えてはいけません。
2. コースは全長にわたって航行可能で、常に乗り越えられる自然障害物および/または人工障害物を備え、すべてのラフトに同等の条件を提供する必要があります。
3. レースコースは、レースディレクターによって任命されたルートプランナーによって設計されます。
4. ルートプランナーは、当初計画した経路がレースの全期間にわたって維持されるようにしなければなりません。また、ゲートやその他の装備を適切に配置する責任があり、レースディレクターが提案する変更や調整を実行する準備ができていなければなりません。
5. レース中に、結果に影響を及ぼすような水位の変化が発生した場合、審判長は水位が正常に戻るまでレース自体を中止しなければならない。
6. レース中にコースの特性を変える瞬間的な要因が発生した場合、主審は競技者間の条件の均一性を確保するためにゲートの変更または移動を許可することができます。

第57条 – スタートオーダー（Starting Orders）

1. 最終出走順は、クルーの氏名、所属、レースナンバーとともに代表団長、審判長、その他のレース役員に渡されるものとする。
2. プログラムは、本規則に規定されている順序とレース間の間隔を尊重して作成されなければなりません。

第58条 – コースの承認

1. レース開始の少なくとも 1 時間前までに、コースはレースディレクターによって承認される必要があります。
2. 代表団長の要請に応じて、レースディレクターはコースの過度の難度または安全上の理由に関連するルート変更の提案を検討する場合がある。

第59条 - スタート

1. スタートは、クルーと次のクルーの間の平均間隔が最短2分から最長5分です。
2. 競技者はスタート地点の近くに時間通りに到着し、自分の存在を確認した後、理想的な位置に落ち着く必要があります。
3. いかだは流れに沿って、または河川の状況に応じて逆流になるように配置する必要があります。
4. スタートは、スタートジャッジのアシスタントが所定の位置に保持することが望ましい、静止したラフトから行われます。個々のスタート手順は、第 34.1 条 a) に定義されています。
5. 不正スタートは、第34条1項a.4)で定義されるように、スタート審判員の疑いのない判断によって決定されます。この場合、問題のチームは**10秒のペナルティ**を受け、レースタイムに追加されます。

第60条 - ゲート

1. ゲートは吊り下げられたポールで形成されます。ダウンは、流れに面して 5 つの緑のリングと 5 つの白いリングで交互に示されます。リングの高さは 20 cm で、ポールの先端は常に白いリングでなければなりません。アップは、流れに面して 5 つの赤いリングと 5 つの白いリングで交互に示されます。リングの高さは 20 cm で、ポールの先端は常に白いリングでなければなりません。ポールの高さは最大 2.00 m、直径 5 cm から 7 cm の円形で、風で動かない十分な重量があり、プラスチック パイプ (PVC) または木材で構築する必要があります。
2. ゲートの上に設置された標識には、予定されているレースコースの設計に従って、ゲートに順次番号が付けられます。標識のサイズは 30 x 30 cm です。標識には、黄色の背景に高さ 20 cm、厚さ 2 cm の黒の数字が両側に表示され、ゲートの正しい通過方向の反対側には厚さ 2 cm の赤い斜めの線が引かれています。
3. ゲート審判員は、その位置から、管轄ゲートを示す標識をはっきりと確認でき、競技者の正しい通過やミスを容易に確認できる位置にいなければなりません。
4. スラロームルートに沿ったゲートの数は、**最低 8 個、最大 12 個**でなければならず、そのうち**最低 2 個、最大 5 個**はアップゲートとして川または水路の左側の右岸と左岸に均等に分散して設置する必要があります。

第61条 – ゲートの通過

1. すべてのゲートは、番号を示す標識に示されている番号の順序と方向に従って通過する必要があります。
2. すべてのゲートは、通路の正しい側を尊重して通過する必要があります。
3. ゲートの通過が開始され、ゲートがアクティブになるのは次の場合です。
 - a. ボート、または乗組員の1人以上の体や頭、またはパドルがゲートのポールに触れる
 - b. 競技者の頭がゲートラインを越えた場合
4. ゲートの通過は、次の場合に終了し、ゲートはアクティブであるとみなされなくなります。
 - a. 3項に規定するとおり、次のゲートに対する通過が始まる。
 - b. フィニッシュラインを通過する。
5. スタートラインやフィニッシュラインも同様にゲートラインとみなされます。
6. 通常のゲート通路とみなすには、次の条件を満たす必要があります。
 - a. 乗組員全員の頭が、コースの設計に従って正しい方向にゲートラインを通過し、身体、パドル、またはラフトがポールに触れることなく通過したこと。
 - b. すべての競技者の頭が川岸とポールの間の線を正しい方向に通過した。つまり、競技者はポールと川岸の間を通過し、所定の正しい方向に通過しなければならない。
 - c. 競技者全員がボート内にいる間に、競技者の頭がゲートを通過しなければならない。
 - d. アップゲートの場合、チームはゲートを継続的に通過します

第62条 – 罰則 ペナルティ

1. スラロームレースでは以下のペナルティが科せられます。
 - a. 「0」ポイント秒: ミスなく正しく通過した場合。乗組員は頭部または胴体で、指示された方法とは異なる方法で通過してはなりません。異なる方法で通過した場合、ゲートがアクティブとみなされ、乗組員がたとえ再度正しく実行しようとしても、「50」ポイント秒のペナルティが発生します。
 - b. 「2」ポイント秒: ゲートの通過は正しいが、1人以上のクルーがゲートのポールに1回以上触れた場合。同じポールに繰り返し触れても、ペナルティは1回のみ課せられます。
 - c. 「50」ポイント秒:
 - i. 1人以上の乗組員が適切に通過せずにポールに触れた場合

ii.1 人以上の乗組員が通過を容易にするために意図的にポールを押す場合。乗組員とボートの体がすでにゲートを通過する理想的な位置にある場合、その動作は意図的であるとはみなされません。

iii. 乗組員がボートをひっくり返した状態でゲートラインを越えた場合

iv. クルーがコースマップとポールに示された方向とは逆の方向にゲートラインを越えた場合。

v. ゲートラインの通過中に、1人または複数の乗組員の身体の一部がゲートラインを間違った方向に越えた場合。

vi. 競技クルーがゲートをスキップした場合。クルーがゲートをスキップして、昇順で次のゲートに進んだ場合、ゲートはスキップされたとみなされます。

vii. 1人または複数の乗務員がゲートをスキップした場合。

d. ボートがゲートのポールの下を触れずに通過（ゲートを横切る）しても、ペナルティは発生しません。

e. すでに通過したゲートのその後の通過は、次のゲートがアクティブになっている場合、たとえポールに触れたとしてもペナルティは発生しない。

f. 1人以上のクルーがラフトから降りてボートを障害物から解放し、コースを続行する場合、ペナルティは発生しません。

g. 1人以上の乗組員が、ゲートをパドルで漕いで通過できないことに気付いた場合、川の状況が許せば、1人以上の乗組員がボートから降り、ボートをゲートの近くまで引っ張ったり押したりして近づくことができます。

その後、ゲートラインに移動し、ゲートを横切って正しい通路に進む前に、乗組員全員がボートに乗り込み、パドルを漕いでゲートを適切に通過する必要があります。乗組員の1人または数人がボートに乗っていない場合、またはゲートラインを横切ったときに、1人以上の乗組員の胸または頭がポール内に適切に入らない場合、乗組員は50ポイントのペナルティを受けます。

乗組員がゲートを通過できない場合にも同じペナルティが課され、その場合はゲート自体がスキップされたとみなされます。

h. 逆に、有効な通過中にポールに1回以上触れた場合は、2ポイントのペナルティが課せられます。

i. ゲートの通過は、常に乗組員全員が乗船した状態で行われなければなりません。R4の場合は4人、R6の場合は6人です。

j. 選手に疑いの余地を与えることは可能です。

第63条 - ゲート審判 The Gate Judges

1. ゲート審判は、ペナルティを表示して割り当てられた通路を確認し、適切な手段で競技事務局に連絡します。ルートにグループ化されたゲートがある場合は、それぞれのステーションに 2 人以上のゲート審判が必要です。
2. ゲート審判員はペナルティを犯した競技者を呼び出したり、煽動したりしてはならない。

第64条 - ゲート審判員のシグナル

1. 罰則を公衆に示すために、ディスクまたは目に見える標識を使用する必要があります。
2. 各ゲート審判員は、両側に色付きで数字 50 (黒) が記された長さ 40cm のハンドルが付いた赤いディスク (直径 20 cm) またはサイン (一辺 20cm) と、両側に数字 2が記されたディスクまたは黄色いサインを装備します。
3. ゲート審判員は、以下の場合にシグナルを使用します。
 - a. ゲート通過が2秒のペナルティを伴って発生した場合、この場合、ゲート審判員はペナルティに対応する数字が書かれた黄色のディスクを上げます。
 - b. ドアの通過が正しく行われなかった場合、50秒のペナルティが科せられます。この場合、ゲート審判員はペナルティに対応する数字が記された赤いディスクを上げます。

第65条 - ゴール Arrival

1. ゴールライン（到着地点）は、川の両岸に非常にわかりやすい方法で示されなければなりません。
2. ラフトはゴールラインを2回以上通過したり、ゴール後にコースを戻ることはできません。レースを終了しない場合、失格となります。
3. フォトセルのサポートのためにゲートを設置する必要がある場合、ラフトが内部でゲートを横切ることが必須です。

第66条 - 順位

1. 結果は、2 回の走行のうち、ベストタイムの秒数で表され、それぞれの走行に割り当てられたペナルティが加算されます。
2. ペナルティポイントは秒数に換算され、レースタイムに加算されます。
3. 2 つ以上のチームが同じスコアでレースを終了した場合、同等とみなされます。

第67条 - コース上の障害物

1. ゲート通過中に追い越されたラフトによって対向艇の妨害が発生した場合、セクタージャッジは長い笛を鳴らして、追い越されたボートに対向艇への航路を離れるよう義務付ける。

第7節 – ダウンリバーレースの特別要件

第68条 – 定義

1. ダウンリバー レースの目的は、道の技術的な困難を克服しながら、流れの方向に、あらかじめ決められた区間をできるだけ短時間で漕ぎ進むことです。

第69条 – 距離

1. コースの長さは、最短3000メートル、最長7000メートルでなければならない。
2. 経路は全長にわたって移動可能でなければならない
3. コースはレースディレクターによって承認され、レースディレクターはその時点の水位を考慮して代替 レースコースを選択する権利を有します。
4. レースのどの段階でも、意図的な身体接触（パドル同士、人同士、人対パドル/ラフト）は禁止されています。 10 秒のペナルティが課せられ、合計レース時間に加算されるか、失格となる場合があります。 10 秒のペナルティが複数ある場合は、それらが合計されます。

第70条 – スタート

1. スタート方法は第34条に定義されています。
2. 第34条1項a.4)に定義される不正スタートは、スタート審判員の明確な判断によって決定されます。この場合、問題のチームには10秒のペナルティが課され、レースタイムに加算されます。

第71条 – ゴール

1. ゴールライン（到着地点）は、川の両岸に非常にわかりやすい方法で示されなければなりません。
2. ボートはフィニッシュラインを 1 回以上通過したり、レース終了後にコースを戻ることはできません。 この規則に違反した場合、当該クルーは自動的に失格となります。
3. フォトセルのサポートのためにゲートを設置する必要がある場合、ラフトが内部でゲートを横切ること が必須です。
4. 乗組員が不足している状態でボートがフィニッシュラインを通過した場合、そのボートは失格となります。

第72条 – ランキング

1. 到着順位は、達成された最速タイムを考慮して作成されます。
2. 2 つ以上の競争チームが同じスコアでレースを終了した場合、同等の順位になります。

付録A

1. パララフティングクルーは 4 人の選手で構成する必要があります。

インド	LTAは切断者（クラス3）を意味します。脚、胴体、腕は働くことができます
クルーはLTA切断者アスリート2名と健常者アスリート2名で構成する必要があります。	
OC	OCは「オープンカテゴリー」を意味します 対象となる障害は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none">•視覚障害クラス B3（最も軽度の視覚障害、最も高い視力、および/または視野半径 20 度未満）•聴覚障害（聴覚障害のあるアスリート）•知的障害
クルーは障害者選手2名と健常者選手2名で構成する必要がある。	

2. WRF は、各イベントの速報または WRF 事務局長の決定により、状況を考慮して、この文書に定められたスポーツ規則を変更できるものとします。

Annex B

	RX	Slalom	Downriver / RX Sprint
1° place	120	100	80
2° place	108	90	72
3° place	96	80	64
4° place	90	75	60
5° place	84	70	56
6° place	82	68	54
7° place	79	66	53
8° place	77	64	51
9° place	74	62	50
10° place	72	60	48
11° place	70	58	46
12° place	67	56	45
13° place	65	54	43
14° place	62	52	42
15° place	60	50	40
16° place	58	48	38
17° place	55	46	37
18° place	53	44	35
19° place	50	42	34
20° place	48	40	32
21° place	46	38	30
22° place	43	36	29
23° place	41	34	27
24° place	38	32	26
25° place	36	30	24
26° place	34	28	22
27° place	31	26	21
28° place	29	24	19
29° place	26	22	18
30° place	24	20	16

付録C

これらの規則の目的は、フェアプレーの精神でクラブ、WRF加盟国内連盟、メーカー、スポンサーの平等な扱いを確保することにより、WRF競技におけるラフトの使用を規制し、レース役員と観客による選手の迅速かつ明確な識別をサポートすることです。

定義

メーカー

スポーツ市場で使用するために、自社のメーカー商標を付した製品を設計、製造（直接または非ブランドライセンシーを通じて）し、販売する会社。このような製品を流通させるサプライヤーやその他の事業体は、メーカーとはみなされません。

メーカー複合マーク

メーカーのワードマークとメーカーのデザインマークを1つの表現で組み合わせて作成された標識、デバイス、またはロゴ。

スポンサー商標

スポンサー広告の要素は、(a) WRF 加盟国内連盟の領土内の国内または超国家商標登録機関に商標として登録されているか、(b) スポンサーシップの起源を示すもの（つまり、合理的な人がスポンサーをスポンサー広告の責任を持つ企業として識別できるもの）です。

WRF メーカースキーム

WRF 製造業者制度により、ラフト製造業者は WRF に登録し、競技用ラフトのプロトタイプを提供して WRF の承認を受けることができます。

2021年4月1日以降、登録済みのWRFラフト製造業者が製造するすべての新しい競技用ラフトには、ラフトの内面にWRF 製造業者のラベルを永久的に固定する必要があります。このラベルは、いかなる方法でも取り外したり改ざんしたりすることはできません。これらのラベルは、WRF ラフト製造業者制度に登録されている製造業者のみが購入できます。

ラベルの例:



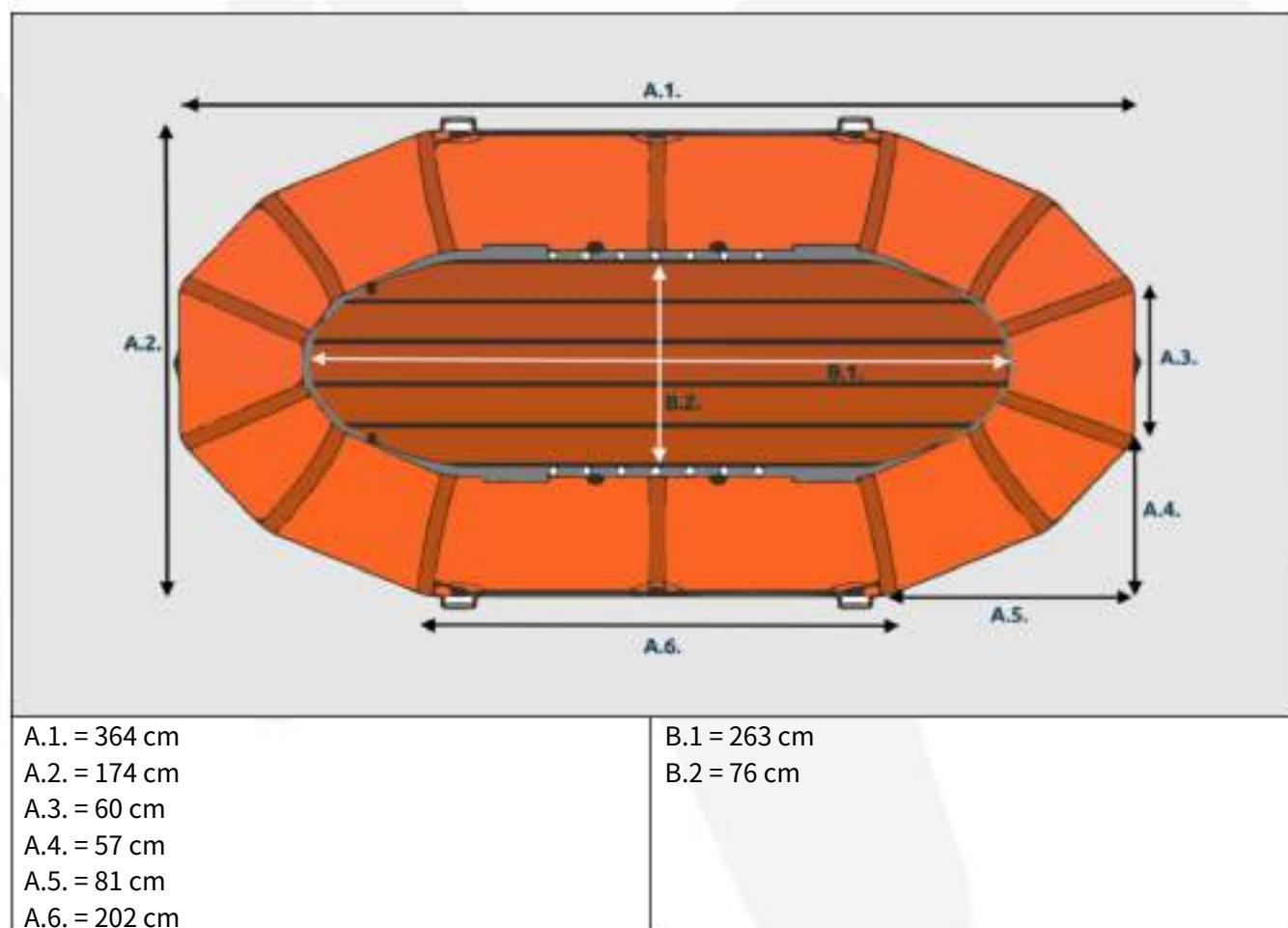
登録されたWRFラフトメーカーが製造したすべての競技用ラフトは、以下のすべての仕様に準拠する必要があります。これらの仕様に違反した場合、WRF理事会が決定した期間、そのメーカーのライセンスが即時停止されます。この期間中、そのメーカーが製造したラフトはWRF公認ラフトとして認められません。

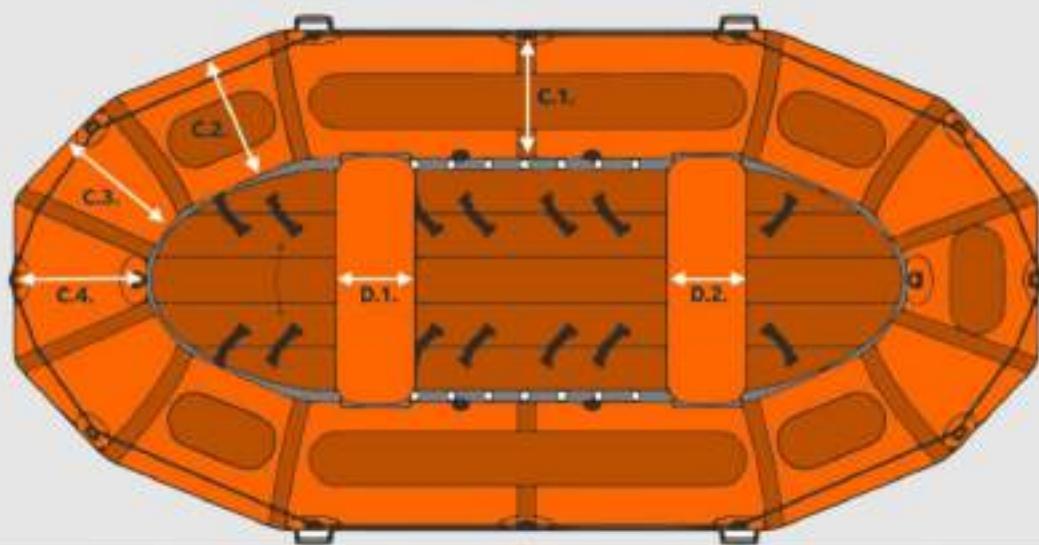
イベント。

ラフトの仕様

最小重量: 30 kg

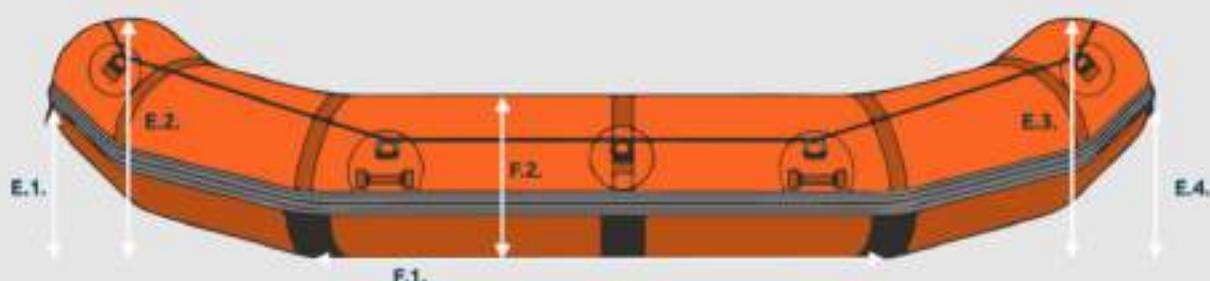
最大重量: 35 kg





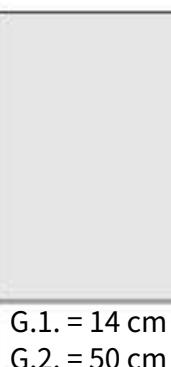
C.1. = 47 cm
 C.2. = 47 cm
 C.3. = 47 cm
 C.4. = 47 cm

D.1. = 28 cm
 D.2. = 28 cm



E.1. = 50 cm
 E.2. = 74 cm
 E.3. = 74 cm
 E.4. = 50 cm

F.1. = 200 cm
 F.2. = 47 cm



製造業者の複合マーク（ラフトの外側に最大 2 個）は、互いに接触したり、ラフト上に表示されている他の要素に接触したりしてはなりません。

スポンサーの商標識別情報（いかだの外側に最大 2 個）は、互いに接触したり、いかだに表示されている他の要素に接触したりしてはなりません。

登録方法

- secretariat@worldraftingfederation.comにメールを送信してください。

関連する連絡先の詳細と製造元の合成マークをすべて記載してください。

- プロトタイプをWRF本部および事務局までお送りください。

raz. Neyran Dessus, 4, 11020

Brissogne (AO), Italy

WRF がプロトタイプを承認すると、WRF 本部が文書を批准し、署名してプロセスを完了します。WRF との契約の一環として、製造業者は次の事項を保証する必要があります。

- 製造されるすべてのいかだには WRF ライセンスラベルが永久的に固定されます。

損傷が最小限に抑えられるいかだ内部でのいかだの建造。

- 製造されるすべての競技用ラフトは、現在の WRF 仕様に準拠します。

- これらの仕様に違反しているラフトを発見した場合、WRF は停止される。

ラフト製作者およびその製作するすべてのラフトは、WRF 執行委員会が決定した期間、すべての WRF イベントで製造業者としての地位を剥奪されます。

コンプレイン用紙



Annex D

Complaint

A complaint against a decision of the Judges must be addressed to the Chief Judge of the jury in writing and must be accompanied by a fee of 75 euro (or an equal amount in another currency). The complaint must be handed to the Chief Judge no later than the time indicated in the Sport Rules.

Complaint

Received

Date Time

____ ____ : ____

Signature - Team Leader

Signature – Chief Judge

Decision of the Chief Judge

The Chief Judge has decided to uphold your complaint _____

The Chief Judge has decided to reject your complaint because:

The decision is final.

Signature – Chief Judge
